

一関工業高等専門学校				一般科目				開講年度				平成31年度 (2019年度)																	
学科到達目標																													
一般教科では、数学・物理のような専門分野の学習に必要な基 礎力を深める一方で、人文や社会に関する科目や情操を育む科目を通して人間としての視野を広め、豊かな知性と教養を兼ねそなえたバランスのとれた技術者を養成することを目指します。																													
【教育目標】																													
A. 国際社会の一員として活動できる技術者																													
B. 誠実で豊かな人間性と広い視野をもつ技術者																													
C. 広い分野の基礎知識と優れた創造力・開発力をもつ技術者																													
D. 継続的に努力する姿勢とさかんな研究心をもつ技術者																													
E. 協調性と積極性をもち信頼される技術者																													
F. 技術と社会や自然との係わりを理解し社会的責任を自覚できる技術者																													
【履修上の注意】																													
「課題研究Ⅰ（フランス語）」は、どの学年でも履修可能です																													
4年生：「第二外国語Ⅰ」は、ドイツ語か中国語のどちらかを選択して履修します																													
5年生：「第二外国語Ⅱ」は、ドイツ語か中国語のどちらかを選択して履修します																													
「哲学」、「法学」、「経済学」、「歴史学」は、いずれか1科目を選択して履修します																													
科目区分		授業科目		科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分					
							1年				2年				3年				4年						5年				
							前		後		前		後		前		後		前		後				前		後		
							1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4			1	2	3	4	
一般	必修	英語演習Ⅰ		0072	学修単位	2													2								酒井 紀行, 佐々木 智巳		
一般	必修	第二外国語Ⅰ（ドイツ語Ⅰ）(ES)		0073	学修単位	2															2							野内 清香	
一般	選択	人文社会科学Ⅰ		0074	履修単位	2														2	2							松浦 千春, 平林 一隆, 海野 洋平, 千田 芳樹, 山田 修司	
一般	必修	第二外国語Ⅰ（中国語Ⅰ）		0075	学修単位	2															2							陳 茜	
一般	必修	体育		0076	履修単位	2														2	2							安倍 健太郎	
一般	必修	日本語表現法		0077	履修単位	1														2								渡辺 仁史	
一般	必修	文学		0078	履修単位	1															2							渡辺 仁史	
一般	必修	第二外国語Ⅰ（ドイツ語Ⅰ）(MC)		0079	学修単位	2															2							清水 翔太	
一般	選択	第二外国語Ⅱ（中国語Ⅱ）		0049	履修単位	1																	2					陳 茜	
一般	選択	課題研究Ⅰ（フランス語）		0050	履修単位	1																			集中講義			鈴木 真太郎	
一般	必修	哲学（MC）		0051	学修単位	2																	2					小原 拓磨, 千田 芳樹	
一般	必修	歴史学		0052	学修単位	2																	2					松浦 千春	
一般	必修	法学		0053	学修単位	2																	2					鈴木 美南	
一般	必修	経済学		0054	学修単位	2																	2					平林 一隆	
一般	選択	第二外国語Ⅱ（ドイツ語Ⅱ）(MC)		0055	履修単位	1																	2					清水 翔太	
一般	必修	英語演習Ⅱ		0057	学修単位	2																			2			二本柳 譲治	
一般	選択	人文社会科学Ⅱ		0058	履修単位	1																			2			平林 一隆, 千田 芳樹, 津田 大樹	

一般	選択	第二外国語Ⅱ（ドイツ語Ⅱ）(ES)	0059	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																					2			清水 翔太	
																				2											
一般	必修	哲学（ES）	0060	学修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																					2			山田 修司, 田 芳樹	
																				2											

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	英語演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	0072		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科目		対象学年	4			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	Read Well, Write Better 成美堂						
担当教員	酒井 紀行,佐々木 智巳						
到達目標							
①技術者に必要な、基本的な英語の語彙・文法を習得する。 ②技術者に必要な、基本的な英文読解能力を習得する。 【教育目標】A, 【学習・教育到達目標】A- 1							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
①技術者に必要とされる、基本的な英語の語彙・文法を習得する。	技術者に必要とされる、基本的な英語の語彙・文法を十分に習得し、正しくアウトプットできる。		技術者に必要とされる、基本的な英語の語彙・文法をある程度習得している。		技術者に必要とされる、基本的な英語の語彙・文法が習得できていない。		
②技術者に必要とされる、基本的な英文読解能力を習得する。	技術者に必要な英文の構造を正しく理解し、文章の大意を素早く正確に把握することができる。		技術者に必要な英文の構造を理解し、文章の大意を正しく把握することができる。		技術者に必要な英文の構造が理解できず、文章の大意を把握することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	標準的な現代英語で書かれた英文の読解と、記述問題を中心とする文法問題の演習により、基本的な読解力と語彙・文法力の養成を図る。						
授業の進め方・方法	教科書についての予習と復習が十分に行われていることを前提とした講義、および演習を行う。適宜追加課題を与え、知識の定着を図るとともにTOEICをはじめとする各種資格試験対策も行う。						
注意点	予習と復習を十分に行うこと。毎回辞書を必ず持参のこと。 【事前学習】 「授業計画」 および授業での指示をもとに、教科書の問題を演習した上で授業に臨むこと。辞書やインターネット等のツールも最大限利用すること。授業は自分の解答と考え方を「修正」する場であると心得ること。 【評価方法・基準】 試験結果(100%)で評価する。技術者に必要とされる英語の理解力、産出能力の程度を評価する。自学自習をしてレポートを提出すること。自己学習レポートの未提出が、4分の1を超える場合は不合格点とする。総成績60点以上を単位修得とする。詳細は第1回目の授業で告知する。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション II	Chapter1 I-	授業概要を理解する。む文を理解できる。	whyを含む	
		2週	Chapter1 III-VII		whyを含む文を産出できる。		
		3週	Chapter2 I-II		who, whomを含む文を理解できる。		
		4週	Chapter2 III-VII		who, whomを含む文を産出できる。		
		5週	Chapter3 I-II		whenを含む文を理解できる。		
		6週	Chapter3 III-VII		whenを含む文を産出できる。		
		7週	Chapter4 I-II		howを含む文を理解できる。		
		8週	Chapter4 III-VII		howを含む文を産出できる。		
	2ndQ	9週	Chapter5 I-II		whereを含む文を理解できる。		
		10週	Chapter5 III-VII		whereを含む文を産出できる。		
		11週	Chapter6 I-II		whatを含む文を理解できる。		
		12週	Chapter6 III-VII		whatを含む文を産出できる。		
		13週	Chapter7 I-II		助動詞を含む文を理解できる。		
		14週	Chapter7 III-VII		助動詞を含む文を産出できる。		
		15週	期末試験				
		16週	試験の解説 及び まとめ				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3		
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3		
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3		
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3		
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3		
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3		

				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3		
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3		
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3		
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3		
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3		
				英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
					英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
					英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
					母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
					関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。		3		
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3		
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3		
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能		日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3		
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3			
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3			
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3			

評価割合		
	試験	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度（2019年度）		授業科目	第二外国語Ⅰ（ドイツ語Ⅰ）(ES)	
科目基礎情報							
科目番号	0073		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年		4		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	上野・本田・及川『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三訂版]』、白水社、2015年。						
担当教員	野内 清香						
到達目標							
ドイツ語の初級文法をある程度習得し、その範囲内で、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し用いることができる。（CEFR A1） Cf. CEFR：ヨーロッパ言語共通参照枠							
【教育目標】B 【学習・教育到達目標】B-2							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		CEFR A1レベルの文章を、学習した範囲内で完全に理解し、自分でも発信することができる。		CEFR A1レベルの文章を、学習した範囲内である程度理解し、自分でも発信することができる。		学習した範囲内でCEFR A1に未達の場合。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		ドイツ語の初級文法を学ぶことを中心に、ドイツ語の発音や日常的な表現力を身につけることを目的とする。					
授業の進め方・方法		指定した教科書を用いて、初級文法事項の学習を進めていく。練習問題、口頭練習を通じて、「読む・聞く・話す」の総合的な学習を行う。その他、適宜プリントを用いて、補足説明と学習内容の確認を行う予定である。					
注意点		【事前学習】 自宅学習のために複数回の課題を課す。 【評価方法】 期末試験（70%）、自宅学習課題（30%）で評価。なお、特段の理由がなく課題提出が遅れた場合は減点対象となる。 総合成績60点以上で単位修得。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		ドイツ語のアルファベートの読み方と発音の原則が理解できる。		
		2週	発音		ドイツ語の発音規則について理解し、発音することができる。		
		3週	動詞の現在人称変化		動詞の人称変化（規則変化）ができる。		
		4週	定動詞の位置		ドイツ語の語順を理解し、簡単な文で自己紹介を行うことができる。		
		5週	定冠詞の格変化		定冠詞の格変化が理解できる。		
		6週	不定冠詞の格変化		不定冠詞の格変化が理解できる。		
		7週	不規則変化動詞		不規則変化動詞の人称変化（不規則変化）ができる。		
		8週	命令形		動詞の命令形を理解し、命令文を使うことができる。		
	4thQ	9週	定冠詞類の格変化		定冠詞類の格変化が理解できる。		
		10週	不定冠詞類の格変化		不定冠詞類の格変化が理解できる。		
		11週	複数形		名詞の複数形が理解できる。		
		12週	人称代名詞		人称代名詞の格変化と用法を理解することができる。		
		13週	前置詞の格支配1（2 / 3 / 4 格支配）		2 / 3 / 4 格支配の前置詞の使い方を理解できる。		
		14週	前置詞の格支配2（3・4 格支配）		3・4 格支配の前置詞の使い方を理解できる。		
		15週	期末試験				
		16週	達成度の点検		ドイツ語Ⅰで学習した文法事項の全てを使いこなすことができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。		3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。		3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。		3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。		3	
評価割合							
		期末試験		課題		合計	
総合評価割合		70		30		100	
総合評価割合		70		30		100	

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	人文社会科学 I	
科目基礎情報							
科目番号	0074			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	4		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	必要に応じて、適宜プリントを配布します。						
担当教員	松浦 千春,平林 一隆,海野 洋平,千田 芳樹,山田 修司						
到達目標							
【教育目標】B 【学習・教育到達目標】B-1、B-2 近代社会とは何かを理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
近代社会		近代社会について十分に理解・説明ができる。		近代社会について一定程度の理解ができる。		近代社会について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	<近代>を統一テーマに置き、人文社会科学の担当者が専門分野を活かして講義を行うことにより、分野横断的な学習を可能にすることを通じて、多角的に事象を捉える能力を涵養することを目的とする。						
授業の進め方・方法	授業担当者が統一テーマのもと講義を行い、その後グループ学習と発表を行うことにより、講義内容を深く理解する手段とする。 授業評価は、グループ学習時に配布する所定の報告書を提出してもらうことで行う。						
注意点	講義の場合には第一講義室、グループ学習の場合には各教室に別れて行われるので、授業の場所を注意すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		本授業の目的と意義を理解できる。		
		2週	近代への視点：Lecture1		近代への視点：Lecture1の内容を理解できる。		
		3週	近代への視点：Lecture2		近代への視点：Lecture2の内容を理解できる。		
		4週	近代への視点：Lecture3		近代への視点：Lecture3の内容を理解できる。		
		5週	近代への視点：Lecture4		近代への視点：Lecture4の内容を理解できる。		
		6週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代への視点：Lec.1~4を深く理解する。		
		7週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代への視点：Lec.1~4を深く理解する。		
		8週	まとめ・発表		近代への視点：Lec.1~4のまとめ・発表ができる。		
	2ndQ	9週	近代の世界：Lecture1		近代の世界：Lecture1の内容を理解できる。		
		10週	近代の世界：Lecture2		近代の世界：Lecture2の内容を理解できる。		
		11週	近代の世界：Lecture3		近代の世界：Lecture3の内容を理解できる。		
		12週	近代の世界：Lecture4		近代の世界：Lecture4の内容を理解できる。		
		13週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代の世界：Lec.1~4を深く理解する。		
		14週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代の世界：Lec.1~4を深く理解する。		
		15週	まとめ・発表		近代への世界：Lec.1~4のまとめ・発表ができる。		
		16週					
後期	3rdQ	1週	近代社会の特性：Lecture1		近代社会の特性：Lecture1の内容を理解できる。		
		2週	近代社会の特性：Lecture2		近代社会の特性：Lecture2の内容を理解できる。		
		3週	近代社会の特性：Lecture3		近代社会の特性：Lecture3の内容を理解できる。		
		4週	近代社会の特性：Lecture4		近代社会の特性：Lecture4の内容を理解できる。		
		5週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代社会の特性：Lec.1~4を深く理解する		
		6週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代社会の特性：Lec.1~4を深く理解する		
		7週	まとめ・発表		近代社会の特性：Lec.1~4のまとめ・発表ができる。		
		8週	近代の文化と人間：Lecture1		近代の文化と人間：Lecture1の内容を理解できる。		
	4thQ	9週	近代の文化と人間：Lecture2		近代の文化と人間：Lecture2の内容を理解できる。		
		10週	近代の文化と人間：Lecture3		近代の文化と人間：Lecture3の内容を理解できる。		
		11週	近代の文化と人間：Lecture4		近代の文化と人間：Lecture4の内容を理解できる。		
		12週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代の文化と人間：Lec.1~4を深く理解する		
		13週	グループ学習		グループ学習を通じて、近代の文化と人間：Lec.1~4を深く理解する		
		14週	まとめ・発表		近代の文化と人間：Lec.1~4のまとめ・発表ができる。		
		15週	一年間の総括		一年間の総括		
		16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3		
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3		
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3		
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3		
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3		
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3		
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3		
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3		
				現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3		
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3		
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3		
		グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3		
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3		
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3		
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
近代社会	0	0	0	0	0	100	100

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	第二外国語Ⅰ（中国語Ⅰ）	
科目基礎情報							
科目番号	0075			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	本間 史等「中国語ポイント4 2」（白水社）　プログレッシブ中国語辞書（コンパクト版）小学館						
担当教員	陳 茜						
到達目標							
授業の目標するのは次の3つ、すなわち 1．学生に中国語の正しい発音と正確な漢字の書き方を身に付けてもらうこと。 2．初歩的な中国語文法を習い、練習を通じて、簡単な中国語会話ができるような基礎力を養うこと。 3．学生に中国文化や習慣や中国と日本の相違点などを理解し、中国を知ってもらうこと。 中国語の発音をしっかりと習得し、基本文法を修得する、国際性を身に付ける、異文化を知る、中国語でコミュニケーションできる楽しさを感じるよう目指す。 【教育目標】A・B							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	中国語の発音記号（ピンイン）を見て読める、聞いて書ける。		中国語の発音記号（ピンイン）を見て読める。		中国語の発音記号（ピンイン）の読み書きができない。		
評価項目2	中国語で簡単なあいさつと日常会話ができる。		中国の漢字を見て、簡単なあいさつと日常会話ができる。		中国語で簡単なあいさつと日常会話ができない。		
評価項目3	辞書などを使って簡単な中国語の文章が読め、書ける。		辞書などを使って簡単な中国語の文章が読める。		中国語文章の読み書きができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義は国際的視野で社会に貢献できる技術者の育成ため、第二外国語として簡単な日常会話ができ、言葉の背景となる中国の文化への関心が広がる。具体的に中国語の発音を練習し、中国語の基礎的な文法を習得できるよう目標とする。本講義は半年を通して、週1回の頻度でごく簡単な日常中国語の習得を目指す。						
授業の進め方・方法	以上の目標達成のため、まず最初は、六週間で主に正しい中国語の発音を集中的に学び、学生諸君に発音の練習を繰り返してさせ、正確な発音をマスターする。土台がしっかり作って、中国語の語彙や文法などの学習に入る。中国語の発音（ピンイン）を自主的に正しく発音できるようにするために毎回の授業中でピンインの練習は不可欠である。中国語の基本文法と基本文型を学びながら中国語会話や日本語を中国語に訳などをできるようにする。講義と演習形式。コミュニケーションの能力を身につけるため、パタン練習、ヒアリング、会話などを総合的に行う。						
注意点	【事前学習】毎回到教科書の内容を復習することと予習しておくこと。また、この授業では辞書が必要なので、各自に準備してください。 【評価方法・評価基準】試験結果(1 0 0 %)で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。成績60点以上を単位修得とする。初級中国語授業との一貫性、連続性に留意ください。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	中国について			中国その国の概要が了解できる	
		2週	中国語について			中国語の特徴が了解できる	
		3週	発音の練習			中国語の発音が了解できる	
		4週	発音の練習			中国語の発音が了解できる	
		5週	発音の練習			中国語の発音が了解できる	
		6週	発音の練習			中国語の発音が了解できる	
		7週	第1課　判断動詞の表現			中国語の判断動詞の使い方が理解できる	
		8週	第2課　動詞の表現			中国語の動詞の使い方が理解できる	
	4thQ	9週	第3課　形容詞の表現			中国語の形容詞の使い方が理解できる	
		10週	第4課　場所の表現			中国語の場所の表現の使い方が理解できる	
		11週	第5課　数量詞の表現			中国語の数量詞の使い方が理解できる	
		12週	第6課　存在の表現			中国語の存在の使い方が理解できる	
		13週	学習内容の確認				
		14週	学習内容のまとめ				
		15週	期末試験				
		16週	試験の解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3		
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3		
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3		
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3		
評価割合							
			試験	合計			
総合評価割合			100	100			
基礎的能力			100	100			
専門的能力			0	0			

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	体育
科目基礎情報						
科目番号	0076		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	COLOR WIDE SPORT					
担当教員	安倍 健太郎					
到達目標						
①各種身体運動に必要な技術や、体育理論の知識を習得することが出来る。 ②目標や記録に向かって、挑戦することを通して継続的に努力をする姿勢を身に付けることが出来る。 ③仲間との活動の中で自分の考えを伝え、積極的にコミュニケーションを行い、協調性を身に付けることが出来る。						
【教育目標】 C, D, E						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
①各種身体運動に必要な技術や、体育理論の知識を習得することが出来る。	各種身体運動に必要な技術が高く身に付けるとともに、体育理論の知識を身に付け自分の考えを文章に論理的にまとめることが出来る。		各種身体運動に必要な技術を身に付けるとともに、体育理論の知識を身に付け自分の考えを文章にまとめることが出来る。		各種身体運動に必要な技術を身に付けることができない。また体育理論の知識を身に付けることができません、自分の考えを文章にまとめることが出来ない。	
②目標や記録に向かって、挑戦することを通して継続的に努力をする姿勢を身に付けることが出来る。	自ら目標を設定し、その目標を大きく突破することが出来る。		自ら目標を設定し、その目標を突破することが出来る。		自ら目標を設定し、その目標を突破することが出来ない	
③仲間との活動の中で自分の考えを伝え、積極的にコミュニケーションを行い、協調性を身に付けることが出来る。	仲間を励ましたり、良い点や修正点を見付けて積極的かつ自主的に声を掛け合ったりすることができている。		仲間を励ましたり、良い点や修正点を見付けて声を掛け合ったりすることができている。		仲間を励ましたり、良い点や修正点を見付けて声を掛け合ったりすることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	生涯に通じて継続的にスポーツを楽しむための資質や能力を育てるとともに、健康で活力ある社会生活を送るために必要な体力の保持増進に関する知識を修得する。					
授業の進め方・方法	・「授業項目」に対応する教科書・参考書の内容を事前に読んでおくこと。また、前回の学習内容についての確認をしておくこと。 ・服装は自由だが運動着であること、体育館用シューズは室内用のものを身につける。 ・実技実施不可能の学生に対し、見学者として考慮することがある。 ・安全については常に心がけ、怪我のないよう留意する。					
注意点	体育の成績は①技能 ②態度・姿勢 ③知識、思考・判断の三点で評価を行う。 ①技能（スキルテスト及び作品の発表等）【60点】 技能の評価については第1回の授業内で詳細を説明する。 ②態度・姿勢【20点】 ・各授業においての服装、授業内で課された提出物、授業に取り組む姿勢等の授業に関わる態度（10点） ・仲間とのコミュニケーションを積極的に行っているか、競技のルールを守って活動しているか、積極的に運動に取り組むことや運動以外の場面で審判を行なう、授業の準備後片付けに取り組む等の授業に取り組む姿勢（10点） ③知識、思考・判断【20点】 体育理論のレポート（レポート①、レポート②）⇒20点 合計60点以上で単位修得とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・体づくり運動		オリエンテーションをする。	
		2週	体づくり運動		体ほぐしの運動を通し、仲間と自主的に関わる事が出来る。	
		3週	体づくり運動		体ほぐしの運動を通し、仲間と自主的に関わる事が出来る。	
		4週	バレーボール		正式なルールでゲームを運営することができる。特性にふれ、楽しさを味わうことができる。	
		5週	バレーボール		正式なルールでゲームを運営することができる。特性にふれ、楽しさを味わうことができる。	
		6週	バレーボール		正式なルールでゲームを運営することができる。特性にふれ、楽しさを味わうことができる。	
		7週	体力テスト		4カ年の体力テストの結果により、体力・運動能力の経年的変化を確認することができる。	
		8週	体力テスト		4カ年の体力テストの結果により、体力・運動能力の経年的変化を確認することができる。	
	2ndQ	9週	体力テスト		4カ年の体力テストの結果により、体力・運動能力の経年的変化を確認することができる。	
		10週	体育理論 ※レポート①		体力テストの結果を踏まえ、運動やスポーツの効果的な学習仕方に関して理解することができる。	
		11週	ニュースポーツ		様々なニュースポーツの経験を通して、スポーツの生活化を理解することができる。	
		12週	ニュースポーツ		様々なニュースポーツの経験を通して、スポーツの生活化を理解することができる。	

後期		13週	ニュースポーツ	様々なニュースポーツの経験を通して、スポーツの生活化を理解することができる。
		14週	水泳	4泳法を再確認し、安全に配慮しながら、水に親しみ、楽しさを味わうことができる。
		15週	水泳	4泳法を再確認し、安全に配慮しながら、水に親しみ、楽しさを味わうことができる。
		16週		
	3rdQ	1週	体育理論 ※レポート②	オリンピック・パラリンピックを中心にスポーツの歴史や文化的特性、現代のスポーツの特徴について理解することができる。
		2週	アダプテッドスポーツ	アダプテッドスポーツを体験し障がいについての理解を深めること、また対人支援能力を養うこと。
		3週	アダプテッドスポーツ	アダプテッドスポーツを体験し障がいについての理解を深めること、また対人支援能力を養うこと。
		4週	アダプテッドスポーツ ※レポート③	アダプテッドスポーツを体験し障がいについての理解を深めること、また対人支援能力を養うこと。
		5週	選択：卓球・バドミントン	基本技能の修得から簡易ルールによるゲームができる。
		6週	選択：卓球・バドミントン	基本技能の修得から簡易ルールによるゲームができる。
		7週	選択：卓球・バドミントン	基本技能の修得から簡易ルールによるゲームができる。
		8週	アルティメット	正式なルールでゲームを運営することができる。特性にふれ、楽しさを味わうことができる。
	4thQ	9週	アルティメット	正式なルールでゲームを運営することができる。特性にふれ、楽しさを味わうことができる。
		10週	アルティメット	正式なルールでゲームを運営することができる。特性にふれ、楽しさを味わうことができる。
		11週	アルティメット	正式なルールでゲームを運営することができる。特性にふれ、楽しさを味わうことができる。
		12週	ハンドボール	正式なルールでゲームを運営することができる。特性にふれ、楽しさを味わうことができる。
		13週	ハンドボール	正式なルールでゲームを運営することができる。特性にふれ、楽しさを味わうことができる。
		14週	ハンドボール	正式なルールでゲームを運営することができる。特性にふれ、楽しさを味わうことができる。
		15週	ハンドボール	正式なルールでゲームを運営することができる。特性にふれ、楽しさを味わうことができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	

評価割合

	技能	態度	知識・思考、判断	合計
総合評価割合	60	20	20	100
総合評価	60	20	20	100

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	日本語表現法
科目基礎情報						
科目番号	0077		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	プリント					
担当教員	渡辺 仁史					
到達目標						
日本語による適切な表現能力の涵養をめざす。語彙のみならず、構文、文章構成への配慮、敬語を含む表現の社会的倫理を併せて学習し、適切なコミュニケーション能力を修得する。 教育目標B 学習・教育到達目標B-2						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本語表現について多角的に理解できる		日本語表現についておおむね理解できる		日本語表現の問題点が理解できない	
評価項目2	文章を推敲し、文法的に適切な文章が書ける		文章を推敲し、適切な文章にする方法が理解できる		文章の推敲ができない	
評価項目3	高度な敬語が使用できる		一般的な敬語が使用できる		敬語が十分使用できない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	素材の収集から科学論文に必要な語彙の涵養、文章の組み立て方、推敲、プレゼンテーションのあり方等にいたる表現の問題点について学習し、併せて敬語の実践的な活用についても発表を通して修得する。					
授業の進め方・方法	文章表現についての講義及び演習、敬語の活用の仕方について発表を通して学習する。					
注意点	評価方法・評価基準：定期試験によりコミュニケーションに関する知識、並びに日本語の習熟度を評価する。 事前学習：良い文章を書くためには平素からの読書が重要であるので努力を怠らないこと。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	表現とは何か		日本語表現の学習の仕方がわかる	
		2週	コミュニケーションとは何か1		表現の機構がわかる（以下敬語の演習を含む）	
		3週	コミュニケーションとは何か2		表現の機構がわかる	
		4週	コミュニケーションとは何か3		表現の機構がわかる	
		5週	文章の素材の集め方		文章の素材の集め方がわかる	
		6週	表現の倫理と著作権について確認する		表現の社会性がわかる	
		7週	既存の理工系文章表現法から学ぶ1		事実と意見の書き分けの重要性がわかる	
		8週	既存の理工系文章表現法から学ぶ2		何を書いてはいけないかがわかる	
	2ndQ	9週	文章の書き出しの工夫		書き出しで躓かない工夫がわかる	
		10週	論説文の表現方法の検討		様々な表現方法の工夫がわかる	
		11週	理工系のための語彙集		理工系で最低限必要な語彙がわかる	
		12週	推敲・要約の観点の確認		文章の推敲・要約の仕方がわかる	
		13週	要約の一般的方法		長文の要約の仕方がわかる	
		14週	プレゼンテーションの留意点の確認		プレゼンテーションの工夫の仕方がわかる	
		15週	定期試験			
		16週	達成度の点検		学習内容の再確認（エントリーシート、小論文対策）	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	

				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3		
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3		
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3		
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3		
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3		
評価割合							
	試験80	発表20	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	文学
科目基礎情報						
科目番号	0078		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	プリント					
担当教員	渡辺 仁史					
到達目標						
グローバルな社会の中での人間のあり方、特に「他者」について理解を深める。 教育目標B 学習・教育到達目標B-2						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	他者というあり方について理解できる		自己とは異なる考えの所在がわかる		自己の論理でしか他者を理解できない	
評価項目2	ヒューマニズムについて理解できる		ヒューマニズムの問題の所在がわかる		ヒューマニズムを考慮できない	
評価項目3	自己の考えを根拠をもって説明できる		自己の考えを一応文章で表現できる		自己の考えを文章で表現できない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	人間性に関わる根源的な問題について文学作品とそれに関する資料を通して考察し、レポートを書く。					
授業の進め方・方法	毎時間配布された文学作品とそれに関連する資料を読みレポートを書く。					
注意点	評価方法・評価基準：毎時間に課するレポートの内容で評価する。対象作品・付録資料の的確な理解、作品論としての妥当性、対象作品と自己との社会的・倫理的立場との関係の明確さが論述されていることを評価基準とする。 事前学習：平素から読書を欠かさないこと。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	文学とは何か（付 翻訳の問題）	文学を読む時の留意点ができる		
		2週	拒まれてあること	文学への関わり方、文学の論じ方がわかる		
		3週	内なる他民族	多民族国家について考えることができる		
		4週	ある帰郷の体験	近代社会への移行について考えることができる		
		5週	汚染された海	社会的侵害について考えることができる		
		6週	廃墟の風景	非人間的なものについて考えることができる		
		7週	人間の尊厳	非人間的なものについて考えることができる		
		8週	失語と沈黙	抑留という排除について考えることができる		
	4thQ	9週	死のフーガ	不条理の通奏低音について考えることができる		
		10週	悲しいオレンジの実る土地	追放の傷みについて考えることができる		
		11週	帰属する場の喪失	流浪について考えることができる		
		12週	差別の後の確執	自由のための課題について考えることができる		
		13週	女性性の表明	保証なき者の戦いについて考えることができる		
		14週	光と闇の交叉	自己と他者との信頼について考えることができる		
		15週	達成度の点検	他者とは何か再確認する		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	

				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
評価割合						
	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度（2019年度）		授業科目	第二外国語Ⅰ（ドイツ語Ⅰ）（MC）	
科目基礎情報							
科目番号	0079			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	平山・小野・藤由『お菓子で学ぶドイツ語』、朝日出版社、2018年。在間進『アクセス独和辞典』、三修社、2010年。						
担当教員	清水 翔太						
到達目標							
ドイツ語の初級文法をある程度習得し、その範囲内で、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し用いることができる。（CEFR A1） Cf. CEFR：ヨーロッパ言語共通参照枠							
【教育目標】B 【学習・教育到達目標】B-2							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		CEFR A1レベルの文章を、学習した範囲内で完全に理解し、自分でも発信することができる。		CEFR A1レベルの文章を、学習した範囲内である程度理解し、自分でも発信することができる。		学習した範囲内でCEFR A1に未達の場合。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		ドイツ語の初級文法事項の学習と、簡単なコミュニケーション能力の獲得に努め、日常的によく使われる表現、基本的な言い回しをある程度使いこなせるようになることを目標とした授業である。					
授業の進め方・方法		指定した教科書を用いて、初級文法事項の学習を進めていく。その他、適宜プリントを用いて、補足説明と学習内容の確認（小テスト）を行う予定である。第14回の授業では、達成度の確認と復習を行う。また、練習問題や長文読解の内容確認のため、授業の際には独和辞典必携。					
注意点		【事前学習】 自宅学習のために複数回の課題を課す。 【評価方法】 期末試験（70%）、自宅学習課題（30%）で評価。なお、特段の理由がなく課題提出が遅れた場合は減点対象となる。総合成績60点以上で単位修得。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	イントロダクション		ドイツ語の特徴・歴史について知る。		
		2週	ドイツ語の発音規則・品詞の種類		ドイツ語の発音規則・品詞が理解できる。		
		3週	sein動詞		sein動詞の活用・使い方を理解できる。		
		4週	定動詞第二位の法則		定動詞第二位の法則の法則を理解し、正しい語順で文を組み立てることができる。		
		5週	動詞の現在形		規則動詞と不規則動詞habenの現在人称変化を理解できる。		
		6週	名詞の性・数・格		名詞の性・数・格について理解できる。		
		7週	人称代名詞		人称代名詞の格変化を理解できる。		
		8週	定冠詞と不定冠詞（1）		ドイツ語の定冠詞と不定冠詞の変化を使いこなせる。		
	4thQ	9週	定冠詞と不定冠詞（2） 複数形		定冠詞と不定冠詞の用法について更に詳しく知る。名詞の複数形が理解できる。		
		10週	不規則変化動詞		不規則変化動詞の現在形の変化について理解できる。		
		11週	不定冠詞類の格変化		不定冠詞類の格変化が使いこなせる。		
		12週	定冠詞類の格変化		定冠詞類の格変化が使いこなせる。		
		13週	前置詞の格支配		前置詞が使える。		
		14週	まとめ		これまで学習した文法事項を全て理解できる。		
		15週	期末試験				
		16週	達成度の点検		ドイツ語Iで学習した文法事項の全てを使いこなすことができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3		
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3		
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3		
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3		
評価割合							
			期末試験	課題	合計		
総合評価割合			70	30	100		
総合評価割合			70	30	100		

一関工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	第二外国語Ⅱ（中国語Ⅱ）
科目基礎情報				
科目番号	0049	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目	対象学年	5	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	本間 史 ・ 孟 広学、「中国語ポイント4 2」（白水社）プログレッシブ中国語辞書（コンパクト版）小学館			
担当教員	陳 茜			

到達目標

授業の目標するのは次の3つ、すなわち
 1. 学生に中国語の正しい発音と正確な漢字の書き方を身に付けてもらうこと。
 2. 初歩的な中国語文法を習い、練習を通じて、簡単な中国語会話ができるような基礎力を養うこと。
 3. 学生に中国文化や習慣や中国と日本の相違点などを理解し、中国を知ってもらうこと。
 中国語の発音をしっかりと習得し、基本文法を修得する、国際性を身に付ける、異文化を知る、中国語でコミュニケーションできる楽しさを感じるよう目指す。
 【教育目標】A・B

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	中国語の発音記号(ピンイン)を見て読める、聞いて書ける。	中国語の発音記号(ピンイン)を見て読める。	中国語の発音記号(ピンイン)の読み書きができない。
評価項目2	中国語で簡単なあいさつと日常会話ができる。	中国の漢字を見て、簡単なあいさつと日常会話ができる。	中国語で簡単なあいさつと日常会話ができない。
評価項目3	日中異文化の違いをある程度理解ができる。	日中異文化の違いをある程度理解ができる。	中国語文章の読み書きができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本講義は引き続き中国の文化に理解と関心を深めることを通して中国語運用能力の向上を目指すとともに国際的に活躍する技術者としての基礎的な中国語能力を身につけることを目標とする。具体的に中国語の発音を練習し、中国語の基礎的な文法を習得できるよう目標とする。
授業の進め方・方法	以上の目標達成のため、引き続き中国語の発音(ピンイン)を自主的に正しく発音できるようにするために毎回の授業中でピンインの練習は不可欠である。中国語の基本文法と基本文型を学びながら中国語会話や日本語を中国語に訳などをできるようにする。講義と演習形式。コミュニケーションの能力を身につけるため、パタン練習、ヒアリング、会話などを総合的に行う。
注意点	【事前学習】毎回到教科書の内容を復習することと予習しておくこと。また、この授業では辞書が必要なので、各自に準備してください。 【評価方法・評価基準】試験結果(70%)で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。学習内容の理解に関して自己レポートを提出すること(30%)。総合で成績60点以上を単位修得とする。初級中国語授業との一貫性、連続性に留意ください。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	前半の復習	ピンインの練習問題・文法の練習問題
		2週	第6課 連動文の表現	中国語の連動文の使い方が理解できる
		3週	第7課 助動詞の表現	中国語の助動詞の使い方が理解できる
		4週	第8課 可能助動詞の表現	中国語の可能助動詞の使い方が理解できる
		5週	第9課 進行と持続の表現	中国語の進行と持続の使い方が理解できる
		6週	中国語の長文を読むの練習	中国語の文章をすらすら読めるように
		7週	第10課 結果補語の表現	中国語の結果補語の使い方が理解できる
		8週	自己紹介の中国語文章を書く	中国語の文章をすらすら書けるように
	2ndQ	9週	第11課 方向補語の表現	中国語の方向補語の使い方が理解できる
		10週	中国語文章の入力の練習	ピンインで中国語の入力が出来る
		11週	第12課 可能補語の表現	中国語の可能補語の使い方が理解できる
		12週	自己紹介の発表	中国語で自己紹介ができる
		13週	学習内容の確認	
		14週	学習内容のまとめ	
		15週	期末試験	
		16週	試験の解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	課題研究 I（フランス語）	
科目基礎情報							
科目番号	0050			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目			対象学年	5		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	『新装 カフェ・フランセ』朝日出版社／仏和辞書（初心者用なら何でも可。）						
担当教員	鈴木 真太郎						
到達目標							
フランス語で簡単なコミュニケーション（挨拶、自己紹介、買い物など）が取れるようになることを目標とする。 目標到達にあたり ①フランスの基礎文法を身につけ、使いこなすことができる ②フランス語の発音を身につけ、相手に通じるよう発音できる ③すでに知っている表現についてはフランス語で聞き取ることができるようにする。 【教育目標】A							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)			標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
①基礎的な文法を理解し、日常生活で用いる初歩的な表現をフランス語で書くことができる。	性数一致や否定文といった文法、êtreやavoir以外の動詞、数字を活用しながら自分の日常生活や趣味について書くことができる。			基本的な動詞の活用を理解し簡単な自己紹介、友人紹介、家族紹介をフランス語で書くことができる。		基本的な動詞の活用を修得していない。自己紹介や100以下の基本的な数字をフランス語で書くことができない。	
②基礎的な発音を理解し、日常生活で用いる初歩的な表現を使って相手に通じるように話すことができる。	性数一致などの文法も意識しながら、身の回りのことや金額・道順について尋ねたり、説明したりすることができる。			フランス語を使って簡単な自己紹介（職業、年齢）、友人紹介、家族紹介をしたり、質問したりすることができる。		フランス語の基礎的な発音を理解しておらず、身の回りのことを口頭で表現できない。	
③日常生活で用いられる基礎的なフランス語を聞き取り、理解することができる。	買い物に関する表現、道案内に関する表現など授業で習う日常的なフランス語を聞いて理解できる。			自己紹介を中心とする基本的なフランス語を聴き取ることができる。		日常で用いる基本的なフランス語を聴き取ることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	教科書をもとに発音、基礎文法を学習する。 学習した内容を教室内で行う練習問題やロールプレイングでアウトプットし、より実践的に身に着ける。						
授業の進め方・方法	自宅で教科書や配布プリントの予習を必ず行い、内容を把握・理解することに努めること（予習の範囲は授業ごとに指示する）。 授業中は各自の予習内容をもとに、毎回質問を受け付けることから始める。 新出単語や動詞の活用は次回までに覚えること。 学習し、理解した内容を練習問題やロールプレイングを行いより実践的な形で定着させる。						
注意点	参加型、実践型の授業を行う時間を確保するため、必ず予習をし、復習も行うようにする。 教材に付属している音源やその他メディアを活用し、聞き取りと発音をしっかり身に着ける。 授業へ積極的に参加（質問、アクティビテ）をする。 【事前学習】 教科書、プリントの指示された部分を予習し、文法規則などを理解する。教科書内の単語を事前に調べ、新出動詞についてはその活用を予習しておく。予習では解らなかったことや疑問に思ったことは書きとめ、次回の授業で質問をする。 【評価方法・評価基準】 期末試験（60％）、授業への参加（30％）、出席（10％）で評価する。総合得点60点以上で単位取得とする。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 教室内で使うフランス語の表現の学習			教室内で使うフランス語の表現が理解でき、使用することができる	
		2週	フランス語の発音			フランス語の発音の基本的な規則を理解し、発音できる	
		3週	自己紹介			自分の名前が言え、相手にたずねることができる 挨拶ができる	

		4週	フランス語のアルファベと0～20の数字	フランス語のアルファベ、数字を聞き取れ、言うことができる
		5週	職業と住まいを言う	職業と住まいを表現する動詞や語彙を聞き取れ、言うことができる 相手に尋ねることができる
		6週	フランス語のアルファベと発音の復習と21～30の数字	フランス語のアルファベや発音をより理解し、使いこなせる 数字を聞き取れ、言うことができる
		7週	国籍、言語と否定文	性数一致や否定文の作り方を理解し、作る（言う）ことができる
		8週	お店で注文する、30～69の数字	店で注文や買い物に必要な簡単な表現を覚え、使うことができる。金額を聞き取ることができる。
	4thQ	9週	綴りを言う	フランス語のアルファベをつかい、綴りを言ったりたずねたりできる
		10週	～を持っている、（兄弟などが）いる	動詞avoirの活用ができ、この動詞を使った表現を理解し言うことができる
		11週	身の回りのものを表す	身の回りのものについて表現したり、たずねたりできる
		12週	自分以外の人を表す	自分や相手以外の人について説明できる
		13週	場所を表す1	場所をたずねたり、答えたりできる 関連する前置詞を理解し、使うことができる
		14週	場所を表す2	道案内を理解できる 道案内ができる
		15週	期末試験	
		16週	試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		期末試験	授業への参加度	合計	
総合評価割合		70	30	100	
評価割合		70	30	100	

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	哲学（MC）	
科目基礎情報							
科目番号	0051		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年		5		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書：プリントを配布します。						
担当教員	小原 拓磨, 千田 芳樹						
到達目標							
【教育目標】B 【学習・教育到達目標】B-1、B-2 哲学における基本的な問題設定やその考え方を理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
身近な事象について哲学的に考察できる		身近な物事について問いを立て、自分なりに考察し、論理的に説明できる。		身近な物事について疑問をもち、自分なりに考察できる。		身近な物事について何も疑問を抱かず、考えようとしない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この授業では、普段当たり前のこととして見過ごされている身の回りの物事についてあらためて疑問に思い、問いを深めることで、哲学の伝統的な問題へと開かれることを目標とする。						
授業の進め方・方法	基本的に講義形式で授業を進めるが、場合によって小グループごとに討議の時間を設けたり、コメントペーパーの提出を求める。						
注意点	【事前学習】配布資料を事前に読み、分からない点をはっきりさせておく。授業中にはノートをとること。 【評価方法・評価基準】試験結果80%、学修レポート20%で評価する。詳細は一回目の授業で告知する。哲学の概要の理解の程度を評価する。また本科目は学修単位であるため、自学自習して学修レポートを提出すること。学修レポートの未提出の場合は不合格とする。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	イントロダクション：講義概容と「子どもの問い」			本授業の目的および進め方、それから哲学的に考えるとはどんなものかを知る。	
		2週	友愛またはキリストの「隣人愛」			キリストの「隣人愛」の概念を理解できる。	
		3週	衣服の現象学：人はなぜ服を着るのか？			人と衣服の関係を理解できる。	
		4週	仮面と素顔：本当の自分とは？			外見と内面の相互作用を理解できる。	
		5週	自己と他者：自分らしさと自分勝手			自己と他者の関係を哲学的に考える。	
		6週	異なる価値観の尊重と改善			相対主義を正しく理解できる。	
		7週	目覚め：デカルト、キリスト教、ヘーゲル			「目覚め」に関する哲学的問題を理解できる。	
	2ndQ	8週	仕事：マルクス			資本主義社会を分析・理解できる。	
		9週	ショッピング：ラカン			人間の「欲望」の構造を知る。	
		10週	スポーツジム：ハイデッガー			健康と死の問題を理解できる。	
		11週	家族と食べること：フロイト			親子関係と食事の意味を理解できる。	
		12週	食べ物と料理：レヴィ＝ストロース			人間文化とその起源について知る。	
		13週	睡眠と夢：ユング			人間の「無意識」について知る。	
		14週	【演習】カフカ『掟の前で』を考える			「問いを立てて、考察する」という哲学的営みを実践できる。	
		15週	まとめ			まとめ	
16週							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	期末試験	学修レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	合計	
総合評価割合	80	20	0	0	0	100	
知識論	80	20	0	0	0	100	

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	歴史学	
科目基礎情報							
科目番号	0052			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	プリント、『岩波テキストボックスa歴史学入門』（岩波書店）						
担当教員	松浦 千春						
到達目標							
①歴史学の学的視点と方法論とを学習する。 ②史料・資料からどのように「歴史」が導かれるのかを学び、中国史の諸相を具体的な資料から考える。 【教育目標】B 【学習・教育到達目標】（B-1）、（B-2） 【キーワード】歴史学、資料論、時代区分、仏教、文芸資料							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1歴史資料の理解	歴史資料について具体的な説明ができる		歴史資料について一定の説明ができる		歴史資料についてほとんど説明ができない		
評価項目2中国史史料の理解	中国史の史料について具体的な説明ができる		中国史の史料について一定の説明ができる		中国史の史料についてほとんど説明ができない		
評価項目3歴史学的な認識と理解	歴史資料を通じて社会や文化について考えることができる		歴史資料を通じて社会や文化について知ることができる		歴史資料から社会や文化についてほとんど知ることができない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	歴史学の学的視点と方法論とを中国史の具体像を通して学習する。「歴史」が史料・資料からどのように考察されるのかを理解し、また中国魏晋南北朝隋唐の歴史的な具体像を資料から考えることを学ぶ。						
授業の進め方・方法	講義は主にプリントによって行う。教科書は実質的にはサブテキストであり、予習として関連する部分を読了しておくことが望まれる。また自習レポートとして教科書概要の提出を求める。グループ討論などによって理解の確認・深化を図るので一人一人が自分自身の考えを示すことができるよう努力すること。						
注意点	歴史学の方法論を踏まえた考察と、その具体的な成果としての中国史の理解の程度を評価する。 【事前学習】 プリントの資料を前もって読んでおくこと。またテキストを指示に従って熟読、場合によっては要約した上で講義に臨む必要がある。 【評価方法・基準】 試験結果（100%）で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。自学自習による自己学習レポートを提出すること。自己学習レポートの未提出が、4分の1を越える場合は評価を60点未満とする。総合成績60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	はじめに 授業の構成と学び方		授業の概要と学習方法が理解できる		
		2週	史書と史料・資料 中国史における正史・史書・史料・資料		中国の歴代正史について理解できる		
		3週	史書と史料・資料 中国史における正史・史書・史料・資料		中国の歴代正史について理解できる		
		4週	時代区分と歴史 歴史学と時代区分と中国史		時代区分の意味について理解できる		
		5週	時代区分と歴史 歴史学と時代区分と中国史		時代区分の意味について理解できる		
		6週	時代区分と歴史 歴史学と時代区分と中国史		時代区分の意味について理解できる		
		7週	東アジア世界の形成		冊封体制による国際関係を理解できる		
		8週	東アジア世界の形成		冊封体制による国際関係を理解できる		
	2ndQ	9週	仏教文化の国際性と地域性 仏教と中国の社会と国家		仏教のグローバルな働きと地域的な特性について認識し、中国仏教を考えることができる		
		10週	仏教文化の国際性と地域性 仏教と中国の社会と国家		仏教のグローバルな働きと地域的な特性について認識し、中国仏教を考えることができる		
		11週	仏教文化の国際性と地域性 仏教と中国の社会と国家		仏教のグローバルな働きと地域的な特性について認識し、中国仏教を考えることができる		
		12週	社会・文化史料の可能性 唐詩と唐代社会		唐詩の中の記述を分析し、歴史事象との関連において考察することができる		
		13週	社会・文化史料の可能性 唐詩と唐代社会		唐詩の中の記述を分析し、歴史事象との関連において考察することができる		
		14週	社会・文化史料の可能性 唐詩と唐代社会		唐詩の中の記述を分析し、歴史事象との関連において考察することができる		
		15週	期末試験				
		16週	試験の確認				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	法学	
科目基礎情報							
科目番号	0053		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科目		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	早川吉尚「法学入門」有斐閣ストゥディア（2016）						
担当教員	鈴木 美南						
到達目標							
法学は、社会科学の一分野である。工学を専攻するうえで、法学を学ぶことに疑問を覚える学生もいるかもしれない。しかし、工学とは、数学と自然科学を基礎とし、ときには人文科学・社会科学の知見を用いて、公共の安全、健康、福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問である。したがって、法学を学ぶことは、社会科学の知見を広げることの意味し、工学の修得を助けることにつながる。よって、本講義の到達目標は、工学を専攻する学生に必要な十分な程度の法学の習得となる。							
【教育目標】B							
【学習・教育到達目標】B－1・B－2							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	法学を学び社会科学の知見を十分に広げることができる		法学を学び社会科学の知見を一定程度広げることができる		法学を学び社会科学の知見を広げることができない		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	法学は、社会科学の一分野である。工学を専攻するうえで、法学を学ぶことに疑問を覚える学生もいるかもしれない。しかし、工学とは、数学と自然科学を基礎とし、ときには人文科学・社会科学の知見を用いて、公共の安全、健康、福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問である。したがって、法学を学ぶことは、社会科学の知見を広げることの意味し、工学の修得を助けることにつながる。						
授業の進め方・方法	教科書として提示している本に準拠して授業は行わないが、教科書などの基本書を通読することによって、授業内容の予習になるため、教科書などの基本書通読を推奨する。また、授業ごとにレジュメ（プリント）を配布するため、それに基づいて復習することが望ましい。						
注意点	本講義は、授業で学生に意見を求める場合があるため、その際は積極的な参加を求める。 【事前学習】教科書の該当箇所を通読することがのぞましい。 【評価方法・評価基準】期末試験（60％）、課題（40％）で評価する。総合成績60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	法学とはなにか（導入）		法学とはどのような学問なのか、概要を学ぶ		
		2週	「法」とはなにか		導入としての「法」を学ぶ		
		3週	法の類型		法にはどのような類型があるのか、その特色を学ぶ		
		4週	アカデミックな文章の書き方①		法を学ぶうえで、必要となることが文章の書き方である。脚注の扱い方などを学ぶ。		
		5週	アカデミックな文章の書き方②		アカデミックな文章の掟を学ぶ。		
		6週	アカデミックな文章の書き方③		課題として出した文章を見直し、自分になにが足りないのかを学ぶ。		
		7週	憲法		法律の基礎となる憲法を学ぶ		
		8週	民法①		私法の中で多く知られている民法を学ぶ		
	2ndQ	9週	民法②		民法（各論）		
		10週	刑法①		公法の中で多く知られている刑法を学ぶ		
		11週	刑法②		刑法（各論）		
		12週	ケース・スタディ①		新潟水俣病		
		13週	ケース・スタディ②				
		14週	ケース・スタディ③				
		15週	まとめ				
		16週	達成度の点検				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験		課題		合計		
総合評価割合		60	40		100		
総合評価		60	40		100		

一関工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	経済学
科目基礎情報				
科目番号	0054	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目	対象学年	5	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	教科書は使用しない。適宜資料などを配布する。			
担当教員	平林 一隆			

到達目標

初歩的な経済学に関する知識を取得する。基本的な経済学説を理解する。人類社会における経済成長の意味を広く理解する。

【教育目標】B・F

【学習・教育到達目標】B-1・B-2・F-1

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
基本的な経済学説を理解し、人類社会における経済成長の意味を広く理解する。	基本的な経済学説を十分に理解し、人類社会における経済成長の意味を大変広く理解する。	基本的な経済学説を理解し、人類社会における経済成長の意味を広く理解する。	基本的な経済学説を理解せず、人類社会における経済成長の意味を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	複雑な経済現象の運動原理を学び、経済関係の本質を理解する。また、経済発展の国際間の相違を理解し、経済成長や豊かさについての歴史や文化による価値観の違いも理解する。 同時に社会科学的な減少のとらえ方考え方を学ぶことで、自然科学との相違点および共通点を考え、科学全般に通じる科学的思考の方法論を理解する。
授業の進め方・方法	教科書は使用しない。各自、講義ノートをしっかり作成すること。 関連事項について、参考文献を各自参照するように心がけること。参考文献は授業で提示する。
注意点	【事前学習】 事前に参考文献がどのような項目を扱っているか確認すること。状況により事前に調べておくことを指示する。 【評価方法・評価基準】 試験結果（100％）で評価する。詳細は第1回授業で告知する。初歩的な経済学に関する知識、基本的な経済学説の理解、人類社会における経済成長の意味を広く理解する程度を評価する。 自学自習をしてレポートを提出すること。自己学習レポートの未提出が、4分の1を超える場合は不合格点とする。 総合成績60点以上を単位修得とする。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	経済学の対象と方法	経済活動の定義を理解できる。
		2週	経済史と経済学説	社会科学および経済学の学問上の特質を理解できる。
		3週	資本主義以前の経済史	経済制度の歴史の概観や、その自然的・文化的背景が理解できる。
		4週	資本主義の成立と特徴	資本主義の成立条件と、他の経済制度と異なる特徴が理解できる。
		5週	アダム＝スミスの資本主義観	アダム＝スミスの資本主義観を理解できる。
		6週	リカード・マルサス論争と資本主義における経済成長	三大階級への分配と経済成長に関する経済学的観点の相違を理解できる。
		7週	資本主義における矛盾の拡大とマルクスの資本主義観	資本主義の発展と矛盾について理解できる。
		8週	資本主義における矛盾の拡大とマルクスの資本主義観	資本主義における再生産構造と矛盾拡大の関係について理解できる。
	2ndQ	9週	限界革命と新たな市場理論	効用価値説および限界学派の基礎理論を理解できる。
		10週	限界革命と新たな市場理論	効用価値説および限界学派の基礎理論を理解できる。
		11週	資本主義発達の国際間での相違 世界大戦と資本主義における帝国主義	独占資本の市場への影響を理解できる。 帝国主義政策とその背景について理解できる。
		12週	世界恐慌とケインズ政策	世界恐慌が経済学説に与えた影響と、ケインズ政策の理論的根拠を理解できる。
		13週	資本主義におけるイノベーションとシュンペーターの資本主義観	シュンペーターの産業循環に関する見地と資本主義観を理解できる。
		14週	マネタリストの資本主義観 資本主義の現代的課題	マネタリストの資本主義観を理解できる 資本主義の現代的課題を理解できる。
		15週	期末試験	
		16週	試験の解説、内容のまとめ、補足	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的理解	50	0	0	0	0	0	50
応用的思考	30	0	0	0	0	0	30
総合的思考	20	0	0	0	0	0	20

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度（2019年度）		授業科目	第二外国語Ⅱ（ドイツ語Ⅱ）（MC）	
科目基礎情報							
科目番号	0055		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般科目		対象学年		5		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	平山・小野・藤由『お菓子で学ぶドイツ語』、朝日出版社、2018年。在間進『アクセス独和辞典』、三修社、2010年。						
担当教員	清水 翔太						
到達目標							
1. ドイツ語の初級文法を習得し、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解、用いることができる。（CEFR A1） 2. ごく基本的な個人的情報、仕事、直接的関係がある領域に関する若干複雑な表現が理解でき、用いることができる。（CEFR A2） Cf. CEFR：ヨーロッパ言語共通参照枠							
【教育目標】B 【学習・教育到達目標】B-2							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		CEFR A2レベルの文章を理解し、自分でも発信することができる。		CEFR A1レベルの文章を完全に理解し、自分でも発信することができる。		CEFR A1に未達の場合。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	ドイツ語Iでの学習成果をもとに、さらにドイツ語の初級文法の学習を進めていく（CEFR A1に該当）。基礎的な文法学習が終わった段階で、日常生活、仕事、関連分野にかかわる長文の読解能力、発信能力の獲得を目指す（CEFR A2に該当）。						
授業の進め方・方法	第10回の授業までは、ドイツ語Iの授業で使用した教科書を引き続き使用する。第11回から第13回の授業では、プリントその他の教材を使用する。第14回の授業では、達成度の確認と復習のためにプレテストを行う。また、練習問題や長文読解の内容確認のため、授業の際には独和辞典必携。						
注意点	【事前学習】 自宅学習のために複数回の課題を課す。 【評価方法】 期末試験（70％）、自宅学習課題（30％）で評価。なお、特段の理由がなく課題提出が遅れた場合は減点対象となる。総合成績60点以上で単位修得。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ドイツ語Iの復習			ドイツ語Iでの学習内容を再確認し、身につけられる。	
		2週	話法の助動詞			話法の助動詞の使い方が理解できる。	
		3週	分離動詞（1）			分離動詞の使い方が理解できる。	
		4週	分離動詞（2）			分離動詞と非分離動詞をつかいこなせる。	
		5週	形容詞の語尾変化			形容詞の語尾変化を正しくすることができる。	
		6週	従属接続詞			従属接続詞の使い方が理解できる。	
		7週	zu不定詞			zu不定詞の使い方が理解できる。	
		8週	動詞の三基本形			動詞の三基本形を使いこなせる。	
	2ndQ	9週	現在完了			現在完了形を用いることができる。	
		10週	再帰代名詞と再帰動詞			再帰代名詞と再帰動詞について理解することができる。	
		11週	長文読解（1）			さまざまな文法事項を理解し、長い文章を読解することができる。	
		12週	長文読解（2）			さまざまな文法事項を理解し、長い文章を読解することができる。	
		13週	長文読解（3）			さまざまな文法事項を理解し、長い文章を読解することができる。	
		14週	まとめ			これまで学習した文法事項を全て理解できる。	
		15週	期末試験				
		16週	達成度の点検			ドイツ語IIで学習した文法事項の全てを使いこなすことができる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3		
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3		
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3		
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3		
評価割合							
			期末試験	課題	合計		
総合評価割合			70	30	100		

総合評価割合	70	30	100
--------	----	----	-----

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	英語演習Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0057		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年		5		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	Exploring SciTech English (開隆堂出版)						
担当教員	二本柳 譲治						
到達目標							
① 技術者として必要とされる理系の英語語彙を習得できる。 ② 技術者として必要とされる理系の英語文書を読解できる。 【教育目標】 A 【学習到達目標】 A-1							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
① 技術者として必要とされる理系の英語語彙を習得できる。		技術者として必要とされる理系の英語語彙を習得できる。		技術者として必要とされる理系の英語語彙をある程度習得できる。		技術者として必要とされる理系の英語語彙を習得できない。	
② 技術者として必要とされる理系の英語文書を読解できる。		技術者として必要とされる理系の英語文書を読解できる。		技術者として必要とされる理系の英語文書をある程度読解できる。		技術者として必要とされる理系の英語文書を読解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		理系英語教材を読解することを通して、理系の文書を読む経験を積み、理系の英語表現及び語彙を学習し、技術者として必要な英語力を獲得することを目指す。					
授業の進め方・方法		理系の語彙確認、理系の文書読解を学生が中心になって行う形で授業を進める。予習を前提に読解を進め、演習を通して知識の定着を目指す。					
注意点		予習を前提とした授業を行う。予習、復習が必要不可欠な授業である。また、授業中は、辞書、ノートを準備し、様々な演習に積極的に取り組む事。授業が終了したなら、その日の内に学習事項の復習（特に語彙に関して）をしておくこと。 【事前指導】 予習として、教科書の進出語句の意味を調べ、本文の意味確認、問題演習をして来ること。 【評価方法・評価基準】 試験結果（100%）で評価する。理系の英語語彙と理系英語文書の理解度を評価する。以上の評価に加えて、課題を提出すること。課題が不十分な場合は不合格とする。総合成績60点以上を単位習得とする。詳細は第一回目の講義で告知する。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Unit 1 Fly your Plane		飛行機の原理を説明した文を理解できる。		
		2週	Unit 2 The History of QR Code (1)		QRコードを説明した文を理解できる。		
		3週	The History of QR Code (2)		QRコードを説明した文を理解できる。		
		4週	Unit 3 Codes and Ciphers (1)		暗号の理論と解読方法の説明が理解できる。		
		5週	Codes and Ciphers (2)		暗号の理論と解読方法の説明が理解できる。		
		6週	Unit 4 Can Robots Be Good Companions? (1)		ロボットの進化に関する説明が理解できる。		
		7週	Can Robots Be Good Companions? (2)		ロボットの進化に関する説明が理解できる。		
		8週	Can Robots Be Good Companions?(3)		ロボットの進化に関する説明が理解できる。		
	4thQ	9週	Unit 5 Laterality:Left - handed versusu Right-handed (1)		右利きと左利きに関する説明が理解できる。		
		10週	Laterality:Left - handed versusu Right-handed (2)		右利きと左利きに関する説明が理解できる。		
		11週	Unit 6 The ChallengerDisaster: Why Did It Happen? (1)		経営者の論理と技術者倫理に関する説明が理解できる。		
		12週	The ChallengerDisaster: Why Did It Happen? (2)		経営者の論理と技術者倫理に関する説明が理解できる。		
		13週	Unit 7 Lucky Number 113 (1)		新元素「二ホニウム」に関する説明が理解できる。		
		14週	Lucky Number 113 (2)		新元素「二ホニウム」に関する説明が理解できる。		
		15週	期末試験				
		16週	試験の解説及びまとめ				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。		3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。		3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。		3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。		3	
					英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	

				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	人文社会科学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0058		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般科目		対象学年		5		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	授業の際に配布する資料に基づいて実施する						
担当教員	平林 一隆,千田 芳樹,津田 大樹						
到達目標							
①情報伝達の方法と社会の問題について理解し自分の考えを発表できる ②他者とヒューマニズムについて考える。国際社会における人間のあり方について考える。SDGsについて知る。 ③現代の正義論について学び、哲学・倫理学が現代社会の諸問題にどのようにアプローチしているのかを理解する。 ④自然・社会と技術の関わりおよびその役割・意義について理解できる。 【教育目標】B・E							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
①資料の読解と論理的考察		資料を正しく読み記述内容を理解するとともに示された課題について発展的に考察することができる		資料を読み記述内容の概略を理解するとともに示された課題について考察することができる		資料を読んで記述内容を理解し考察することができない	
②他者とヒューマニズムについての理解、作品論の論述。		他者とヒューマニズムについて理解し、自己の考えを作品と向き合い論じることができる。		自己と異なる他者について理解し、ヒューマニズムの問題の所在がわかる。		自己の論理でしか他者を理解できない。	
③現代の正義論をめぐる議論についての理解		現代の正義論をめぐる代表的な論者の立場を理解し、説明できる。		現代の正義論をめぐる代表的な論者の立場を理解できる。		現代の正義論をめぐる代表的な論者の立場を理解できない。	
④自然・社会と技術の関わり等についての多角的・複合的理解		自然・社会と技術の関わり等について、多角的・複合的に理解できる。		自然・社会と技術の関わり等について、多角的に理解できる。		自然・社会と技術の関わり等についての多角的に理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		社会の諸課題について異なる専門領域からの複数の視座によって多角的に理解し考える。自己と他者の思惟の相違、個人のかげがえのなさについて考え、文学作品の読解・論述を通して相互理解とヒューマニズムの意味を理解する。					
授業の進め方・方法		講義は複数の教員が順次担当し、各々のテーマに基づいて授業を展開する。 ＊渡辺担当授業については作品と資料の読解、並びにレポート作成・提出とする。					
注意点		【事前学習】事前に資料を十分に読み、また関連する時事的な問題についても調べておく。 【評価方法・評価基準】レポート(50%)、期末試験(50%)で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。総合成績60点以上を単位修得とする。 ＊授業時間内でのヘイトスピーチ、レポートでの差別的言及は厳禁とする。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	情報伝達の技術とコミュニケーション		情報伝達の方法と社会との関連性を理解し自分の考えを発表できる		
		2週	情報伝達の技術とメディア		情報伝達の技術とメディアとの関連性を理解し自分の考えを発表できる		
		3週	情報伝達と社会的主体性		情報伝達と社会における個人の主体性の関連を理解し自分の考えを発表できる		
		4週	情報伝達の技術と現代社会		現代における情報伝達の方法と社会の問題について理解し自分の考えを発表できる		
		5週	国際機関について学ぶ（特にUNHCRについて）		国際機関の働きがわかる		
		6週	森絵都「風に舞い上がるビニールシート」を各自読む		国際機関で働く人々の日常と非日常がわかる		
		7週	レポート（400字）「風に舞い上がるビニールシート」について作品論を書く		文学の論じ方がわかる（4学年文学の発展）		
		8週	現代の正義論を学ぶ		ロールズの政治哲学が分かるー『正義論』を中心にー		
	4thQ	9週	ノージックのロールズ判を学ぶ		ノージックのリバタリアニズムの基礎が分かる		
		10週	センのロールズ批判を学ぶ		アマルティア・センの倫理学、経済思想の基礎が分かる。		
		11週	サンデルのロールズ批判を学ぶ		サンデルのコミュニタリアニズムの基礎が分かる。		
		12週	自然と技術の関わり ー科学と技術ー		自然科学と技術の関係が理解できる。		
		13週	社会における技術の役割 ー技術史的視点を中心にー		社会発展における技術の役割・影響が理解できる。		
		14週	現代社会の諸課題と技術		現代社会の諸課題に対する技術発展の関わるべき方向について考える。		
		15週	期末試験				
		16週	まとめ		これまでの授業を総括し学習内容を確認できる		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	課題1	課題2	期末試験	期末試験	合計		
総合評価割合	25	25	25	25	100		
論理的読解と論述	25	0	0	0	25		

作品論を書くことができる	0	25	0	0	25
現代の正義論	0	0	25	0	25
自然・社会と技術の関わり等についての多角的・総合的理解	0	0	0	25	25

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度（2019年度）		授業科目	第二外国語Ⅱ（ドイツ語Ⅱ）(ES)	
科目基礎情報							
科目番号	0059			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	上野・本田・及川『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』、白水社、2015年。						
担当教員	清水 翔太						
到達目標							
1. ドイツ語の初級文法を習得し、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解、用いることができる。（CEFR A1） 2. ごく基本的な個人的情報、仕事、直接的関係がある領域に関する若干複雑な表現が理解でき、用いることができる。（CEFR A2） Cf. CEFR：ヨーロッパ言語共通参照枠							
【教育目標】B 【学習・教育到達目標】B-2							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		CEFR A2レベルの文章を理解し、自分でも発信することができる。		CEFR A1レベルの文章を完全に理解し、自分でも発信することができる。		CEFR A1に未達の場合。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		ドイツ語Iでの学習成果をもとに、さらにドイツ語の初級文法の学習を進めていく（CEFR A1に該当）。基礎的な文法学習が終わった段階で、日常生活、仕事、関連分野にかかわる長文の読解能力、発信能力の獲得を目指す（CEFR A2に該当）。					
授業の進め方・方法		ドイツ語Iの授業で使用した教科書を引き続き使用する。第11回から第13回の授業では、教科書に加えてプリントその他の教材を使用して長文読解の練習を行う予定である。事前の準備（発音してみる、単語の意味を調べる、構文を調べてどんな意味か考える）が求められる。また、練習問題や長文読解の内容確認のため、授業の際には独和辞典必携。					
注意点		【事前学習】 自宅学習のために複数回の課題を課す。 【評価方法】 期末試験（70%）、自宅学習課題（30%）で評価。なお、特段の理由がなく課題提出が遅れた場合は減点対象となる。総合成績60点以上で単位修得。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンスと復習		ドイツ語Iで学習した内容を確認し、さらなる文法事項の習得の基礎を理解できる。		
		2週	形容詞の格変化		形容詞の付加語用法の使い方が理解できる。		
		3週	話法の助動詞		話法の助動詞の使い方が理解できる。		
		4週	分離動詞（1）		分離動詞の使い方が理解できる。		
		5週	分離動詞（2）		分離動詞と非分離動詞を使いこなせる。		
		6週	従属接続詞		従属接続詞の使い方が理解できる。		
		7週	zu不定詞		zu不定詞の使い方が理解できる。		
		8週	再帰代名詞と再帰動詞		再帰代名詞と再帰動詞について理解することができる。		
	2ndQ	9週	動詞の三基本形		動詞の三基本形を使いこなせる。		
		10週	現在完了		現在完了形を用いることができる。		
		11週	長文読解（1）		さまざまな文法事項を理解し、長い文章を読解することができる。		
		12週	長文読解（2）		さまざまな文法事項を理解し、長い文章を読解することができる。		
		13週	長文読解（3）		さまざまな文法事項を理解し、長い文章を読解することができる。		
		14週	まとめ		これまで学習した文法事項をすべて理解できる。		
		15週	期末試験				
		16週	達成度の点検		ドイツ語IIで学習した文法事項の全てを使いこなすことができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		期末試験		課題		合計	
総合評価割合		70		30		100	
総合評価割合		70		30		100	

一関工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	哲学（E S）	
科目基礎情報							
科目番号	0060		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年		5		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書：資料を適宜配布する。						
担当教員	山田 修司,千田 芳樹						
到達目標							
【教育目標】B 【学習・教育到達目標】B-1、B-2 科学・技術の発展にともなう現代社会の哲学的問題に対する理解を深める。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
科学・技術の哲学		現代社会の科学・技術による哲学的問題を理解し、かつ自分なりに説明ができる。		現代社会の科学・技術による哲学的問題を理解できる。		現代社会の科学・技術による哲学的問題を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	現代社会の私たちの営みにおける諸問題には、科学・技術がもたらす問題があり、哲学的な取り組みの必要がある。授業で紹介するトピックを通じて哲学的問題への理解を深め、自分なりに考える姿勢を養うことを目標とする。						
授業の進め方・方法	講義形式で授業を進める。 適宜討議の時間を設け、自分なりに考え理解を深める機会とする。必要に応じて参考文献を紹介する。						
注意点	【事前学習】ニュースや文献等に目を通し、授業で扱うトピックに関する関心を高めること。授業中にはノートをとること。 【評価方法・評価基準】試験結果80%、学修レポート20%で評価する。詳細は一回目の授業で告知する。哲学の主要の理解の程度を評価する。また本科目は学修単位であるため、自学自習して学修レポートを提出すること。学修レポートの未提出が4分の1を超える場合は不合格とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、科学・技術と現代社会		本授業の目的および進め方、科学・技術の現代社会的諸問題への哲学的取り組みの必要を理解できる。		
		2週	科学と社会(1)：社会のなかの科学		社会のなかで科学が果たす役割と責任を理解できる。		
		3週	科学と社会(2)：科学のなかの社会		科学的営みがもつ社会的な側面を理解できる。		
		4週	科学と社会(3)：科学技術社会論		科学技術社会論の考え方を理解できる。		
		5週	技術の哲学(1)：技術は科学とどう違うのか		技術哲学の考え方を理解できる。		
		6週	技術の哲学(2)：工学と技術者		工学の哲学的特徴や技術者の責任を理解できる。		
		7週	技術の哲学(3)：デザイン		デザインについての哲学的問題を理解できる。		
		8週	技術の哲学(4)：ロボット・人工知能		ロボットや人工知能をめぐる哲学的問題を理解できる。		
	2ndQ	9週	医療と哲学(1)：生殖医療		生殖医療をめぐる哲学的問題を理解できる。		
		10週	医療と哲学(2)：安楽死		安楽死をめぐる哲学的問題を理解できる。		
		11週	環境と哲学(1)：環境保護の思想		環境保護の背景にある思想を理解できる。		
		12週	環境と哲学(2)：自然の価値		自然の価値をめぐる哲学的問題を理解できる。		
		13週	災害と哲学(1)：東日本大震災		東日本大震災がもたらした哲学的問題を理解できる。		
		14週	災害と哲学(2)：復興と防災		復興と防災をめぐる哲学的問題を理解できる。		
		15週	まとめ		まとめ		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	期末試験	学修レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	合計	
総合評価割合	80	20	0	0	0	100	
知識論	80	20	0	0	0	100	